

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。よろしくお願いします。

以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、10年後の医師半減と地域医療崩壊への対応について。

- (1) 市内医療機関の医師数と今後の状況について、具体的には、市内開業医の高齢化が以前より心配されていましたが、10年後、15年後にはどのような状況となるか、どう分析し対応しようとしていますか、伺います。
- (2) 基幹病院である糸魚川総合病院の医師の確保についても、高齢化、働き方改革による富山大学への医師の戻りと診療科の縮小、それによる研修医の減少など、ダブル、トリプルで医師が不足していくと予想されますが、10年後、15年後にはどのような状況となるか、どう分析し対応しようとしていますか、伺います。
- (3) 医師のみならず、患者である市民も高齢化することで通院がますます困難となります。市内医療機関はもちろん、現在も上越市や富山県に通院し治療を受ける市民が安心できる体制づくりをどのように進めるか、現状と課題について、また市は、どう分析し対応しようとしていますか、伺います。
- (4) 以上のことから、遠隔医療（リモート医療）や在宅医療を進めないと、10年後の医師半減と地域医療崩壊への対応はできないと私は考えます。

今後の市の取組について、伺います。

2、10年後の、にぎわいがあり、住み続けられるまちの実現、公民連携による「にぎわいの拠点・子育て支援センター複合施設」の計画について。

- (1) 駅北復興まちづくりエリアの被災者・住民の皆さんは、復興まちづくりの計画や戦略に市が示したような、にぎわいがあり、住み続けられるまちが実現するものと信じて、市の計画の推進に協力してきました。今、市内各地でヒアリングをしている「にぎわいの拠点・子育て支援センター」の計画には被災者・近隣住民を取り巻く問題の解決を行政課題としていますか、被災者・近隣住民の思いはないがしろにされていませんか、伺います。
- (2) 「にぎわいの拠点・子育て支援センター」の計画敷地は確定しましたか。大町区の井上商会跡地と旧東北電力ビル敷地で計画と聞いていますが、どのくらいの敷地にどのくらいの施設をつくる計画ですか、伺います。
- (3) 基本構想は誰が検討し、設計の基準をどこに求めていますか。プロジェクトリーダーが市の場合、柔軟で新しい発想に乏しいものとなることが懸念され、建設工事費も公共工事の基準を適応して民間の2倍となることも懸念されます。以前市も視察に行った岩手県紫波町のオガールは、公民連携方式で住民ニーズのある施設を建設し、民間事業者や公共機関がテナントで入り、10年後も、にぎわいがあり、住み続けられるまちづくりが進んでいます。市もこれを見習い、市民はもちろん、被災者・住民が望む機能を持つ施設を計画してください。

具体としては、子育て施設を中心に、小規模コンビニエンスストア、規制の緩い図書館機能、若い移住者や近隣高齢者が使う温浴施設やランドリーカフェなどを併設し、複合的な機能によって、多世代の市民が市内各所から訪れ利用することで10年後も施設が持続できると考えます。以上の提言に対する市の考えを伺います。

3、NHK「ブラタモリ」から私たちが学んだものは何か。

- (1) 11月20日、27日とNHKの人気番組「ブラタモリ」糸魚川編の放送により全国に糸魚川の持つ魅力が伝わり、その反響も大きいと聞いています。このことをきっかけに市は今後どのような政策を展開していくか、伺います。
- (2) これまでも糸魚川市の地理地形の特異性を学習し、市民や子供たちが糸魚川への誇りを持つことにつながるよう、市が組織、人材、費用を費やしてジオパーク活動を続けてきましたが、「ブラタモリ」放送の前と後を比べると、これまでのジオパーク活動の在り方について、振り返り検証すべきこともあると思います。NHK「ブラタモリ」から私たちが学んだものは何か、その点、どう分析し対応しようとしていますか、伺います。
- (3) 「ブラタモリ」によって糸魚川市の魅力を全国の国民に知らしめ、イメージアップに貢献してくださったタモリさんへの感謝と、「ブラタモリ」を通じてできたご縁を生かして、NHKやフォッサマグナ糸静線沿線都市との今後のつながりづくりについて、伺います。
- (4) 「糸魚川世界ジオパークまるごと糸魚川資料集」「梅海新道その自然北アルプスから日本海へ1988」「翡翠展東洋の至宝2004」は、「ブラタモリ」糸魚川編で紹介された糸魚川の魅力をさらに感じるができるテキストです。多くの市民から手にして見て楽しんでいただけるようにいただきたいと願うものですが、いかがですか。教育長に伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在23人の開業医がおられますが、高齢化などにより、将来的には現在よりも減少すると想定しており、新たに開業される医師には、引き続き支援をしております。

2点目につきましては、糸魚川総合病院の診療機能を維持できるよう病院と連携して、大学への医師派遣要請を行い続けてまいります。

3点目につきましては、交通ネットワークの維持や医師の確保が困難となることが懸念されることから、地域医療体制の確保に取り組んでまいります。

4点目につきましては、遠隔診療や訪問診療等の必要性が高まるものと考えられることから、医療関係者とともに調査研究を進めてまいります。

2番目につきましては、子育て世代や地域住民のほか、様々な団体の皆様と意見交換をし、多くの意見を頂いております。その上で、施設構成や規模、施設運営における民間事業者の参入の可能

性も含めて検討し、今年度策定している基本計画に反映してまいります。

3番目の1点目と2点目につきましては、フォッサマグナやヒスイなど、当市の特徴的な地域資源が全国に発信され、ジオパークとしての魅力を感じていただけたと捉えております。これをきっかけとして、さらにユネスコ世界ジオパークの推進による地域振興に取り組んでまいります。

3点目につきましては、今後ともテレビ局等への情報提供を行うとともに、つながりのある各地域と連携を深めてまいりたいと考えております。

4点目につきましては、3つの書籍とも図書館で貸出し可能であり、多くの方からご覧いただきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

10年後の医師半減と地域医療崩壊への対応について、通告書に沿って再質問します。

市内の医師の高齢化の状況や医療機関の医師数字について、数量的な分析をされたと思います。詳細を伺います。

また、そのことがどういった状況をつくるか分析をされたと思います。医師確保と診療科確保、富山大学からの医師の派遣、研修医確保の見通しを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

開業医の高齢化に伴いまして、新たな開業がなければ、かなりのかかりつけ医の数は減少するというふうに認識しております。市民にとって身近なかかりつけ医の減少というふうにつながりますので、これについては大変懸念する材料だというふうに考えております。

また、糸魚川総合病院の機能維持を図るため、医師でありますとか研修医の確保に努めておりますけれども、引き続き、富山大学との良好な関係を維持しながら、必要な医師、研修医の派遣をお願いしてきておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

基幹病院に医師を確保できずに地域医療が崩壊するのは、10年後のことではありません。あってはならないことですが、明日にも起こり得ます。

そのとき市民はどうするか。恐らく市外の病院へ行くだらうと、皆さんは考えていませんか。何としても治療をしてほしい、助かりたいとなれば、どこでも行くだらうと考えるでしょう。池田課

長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

人口減少でありますとか、高齢化の現状を踏まえますと、将来にわたって基幹病院の今の機能を維持するという事は、困難でないかというふうに考えております。

県の地域医療構想の進め方にもありますように、医療需要は変化するというふうに分析されておりました、高度な手術、こういうものの需要については、ある程度集約し、骨折でありますとか肺炎だとか、需要が増える治療については、地域に密着する体制を取ることが必要で、広域な体制も含めまして、地域医療の質と、安定した地域医療の提供を図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

もう少し具体的に申し上げます。

皆さんのように年休を取って、余裕を持って市外の病院へ行ける人はいいんです。

しかし、そうじゃない市民もたくさんいるんです。時間的に、経済的に、物理的に、市外の病院へ行けない市民を思い、10年先のことを憂いて、今から明日の糸魚川の医療体制を構築する。その危機感と責任感が行政にはおありでしょうか。市民一人一人に寄り添う医療で、誰もが安心して暮らせるまち糸魚川へ、行政と議会と一緒に、具体的に市民の命を守る政策を進めなければいけません。市長のお考えを確認させていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、非常に医師不足、そして看護師不足、そういう状況も続いている中において、確実に糸魚川総合病院に富山大学から医師を派遣するという事は、明確には本当に位置づけはありません。そういう中で今おいていただいているのは、毎年この糸魚川総合病院と連携を取りながら、今行っていることが一番の今、一つの道筋であるわけでありまして、変化する中において、それ以上のものは、今の現在の中では難しいと捉えております。

そして、今、新潟県の地域医療構想を進める中において、そのような医療需要によって、この形を変えなくてはいけないというような方向にあるわけでありまして、そして、働き方改革と併せまして、非常に今その辺が変化をするときにはなかろうかなと思っております。

そういう中で、行政の果たす役割、我々といましては、環境が同じような市町村、そういったところと市も含めまして6市、そしてまた、この同じ病院を持つ地域と合わせまして、11の地

域が、今連携を取りながら県と協議をさせていただいている状況でございます。まだまだ、この辺は流動的でございます。

しかし、基本的に我々住んでおる都市から病院がなくなるということは、非常に都市の存続にも、また持続にも大きく影響するものでございますので、決して医療をなくしてはいけないと思うわけでありまして。そのときに我々は、どのように対応すればいいか、今からそういったところを検討・研究もしている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

さて、市内の開業医の高齢化についてです。

先生方は、これからもご活躍されると思いますが、糸魚川の人口が増えない限り、新しく開業される方がどんどん出てくるとは考えにくい。今は、かかりつけ医からワクチン接種をしていただいたり、救急医療も糸魚川総合病院との病診連携がありますが、10年後、できなくなったとき、市はどう対応していきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ご指摘のように、かかりつけ医の減少というのは、間違いなく起こっていくというふうに考えております。

そこで、地域医療をどういうふうに維持していくかということになりますと、1つは、基幹病院である糸魚川総合病院をしっかりと機能を維持させる。

そして、もう一つが、糸魚川市で持っております能生の国保診療所、こちらのほうもきちっと運営していく。その上で診療所が、それぞれ民間のクリニック、診療所が連携していく。そういう形を取りながら、市民の皆さんから安心して医療にかかっていたいただけるような、そんな体制づくりをこれからも考えていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

通告書のとおり、10年後の医師不足への対応には、遠隔医療や在宅医療が必要と考えます。糸魚川のような医療に乏しい町の未来の医療の確保のため、様々な取組が始まり、実証実験も行われているようです。

市長公約にも遠隔医療のことがあったと記憶します。地域医療確保には、オンライン診療が必要と聞いています。オンライン診療で、患者と医師と医療機関をつないで、診察や治療を行う。と同時に、情報が共有され、診療システムが構築されれば、市外の医療機関の専門性の高い医療が、在宅で受けられる可能性も出てきます。となれば糸魚川市は率先して、取り組むべきです。

そこで伺いますが、糸魚川市は、新潟県の医療構想の重点地区ではないですか。県の医療構想には、人口減少と高齢化による医療アクセスの低下に対し、ICT等を活用して医療情報を共有し、保管する仕組みを構築することが示されていたと思います。であれば、県の重点地区への支援で、オンライン診療を糸魚川市の医療で実現していくタイミングは、今だと考えます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、田原 実議員からお話がありましたように遠隔診療、あるいは訪問診療というのは、コロナ禍であって、非接触の医療が求められておる。あるいは当市のように市域が広く、中山間地域を抱える状況、こういうことを考えますと、ICTを活用した医療で補完するこういう仕組みというのは、大変重要であるというふうに考えております。

今ほど紹介のありました地域医療構想の重点支援地区に、先週、糸魚川上越地域は国の指定を受けました。そうであれば、国なり県なりの大きな力を貸していただきながら、今お話のあったICTを活用した遠隔診療なり、そういうものに取り組む、今絶好のチャンスだというふうに考えております。

したがいまして、医師会でありますとか関係機関と、早速、でき得れば協議の場を設けながら、どういう形がいいのか検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

前向きなよいご答弁いただいたと思います。

コロナウイルス感染対応で、社会は変わりました。医療においてもオンライン診療が、今後当たり前になっていくのではないのでしょうか。私も素人ですが、オンライン診療を地域医療のシステムとして進めるならば、まずは市直轄の医療機関である能生国保診療所と基幹病院の糸魚川総合病院と連携して、システム構築を進めていくと想像します。市外の病院や市内開業医への水平展開は、その後ということで、まずは能生国保診療所の担える地域でオンライン診療の実証実験に入って、一步を踏み出すということです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどありましたように、糸魚川総合病院と能生国保診療所をICTで結ぶ、それをまず先行して、そしてさらに横展開を開業医にしていけばどうかというご提案で承りました。確かにそれも一つの手法だというふうに考えております。

ただ、行政の思いと実際、糸魚川総合病院なり国保診療所の思いが一致しておれば、そういうふうに進め、あるいは協議すればよろしいかと思いますが、その辺りは情報を共有しながら、意思を

確認しながら着実に進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

課長の言うことはごもっともだと思います。

ただ、医療機関を全て網羅した計画づくりを行政のペースでやっている、協議会をつくって、会議でお題目を唱えて5年ということにもなりかねません。今、国保診療所や糸魚川総合病院にオンライン診療に取り組んでいこうという積極的な医師がいるうちに、試行的に始めることが大切なことです。その動きを見た研修医が、参画する可能性もあります。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

決して、時間をかけてということではありません。国保診療所は、糸魚川市が設置しております診療所ですので、まずはその医師、あるいはスタッフと協議しながら、どこから手をつけていけばいいのか。また、恐らく経費も相当な経費がかかってくるんだと思います。その辺りも考慮しながら、着実に進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

オンライン診療だけが、10年後の医師半減への対応ではないです。様々なことを同時に進める必要があります。その中の大きな役割の一つとしてオンライン診療がある。市は、ぜひ取り組んでいただきたいですし、やる以上はスピード感を持って進めていただきたい。オンライン診療についての調査費を来年度の予算に盛ってはとありますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

オンライン診療を実現するまでには、いろんな行程があるかと思います。もし実際やるとなれば、そういう調査費というのは、必要になるんだろうというふうに考えております。

ただ、そのタイミングが、新年度予算なのかどうかというのは、ちょっとここではお答えづらいことでもあります。

したがって、先ほども言いましたように、後れることなく、このオンライン診療の問題については、取り組んでいきたいということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

課長の気持ちはよく分かりました。恐れ入りますが、いま一度、米田市長のお考えを確認させていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、課長の申したとおり、進めていきたいと思っております。

また、ただこれだけにとどまらず、我々そのほかにも糸魚川出身の医師の皆様方から糸魚川の医療を考える会をつくっていただいております。総勢今30名を超しておる医師がおられるわけでございます。そういった方々と、これからの医療をどう捉えていくかという、やはり論議もする中において、糸魚川の地域医療を捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今ご紹介のあった皆さんと市長が、まさにオンラインで医療フォーラムをやる。その場면을期待しております。よろしく申し上げます。

では、続きまして、にぎわいの拠点、子育て支援センター複合施設の計画について、2回目の質問です。

子育て支援センター複合施設の計画は、住民が住み続けられるまちの計画ですか、それとも、子育ての行政課題を解決するための計画ですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

まず、市民のニーズというのが、子育て施設の中に市民のニーズというものが、まずございます。それに同時に、行政として子育て支援施設、今の場所が手狭になっている行政としての課題がございます。また、そこに加えまして、復興の先を見据えました駅北まちづくり戦略に描かれました、まちの将来像を見据えたために、その3つの観点の子育て支援施設にはあるというふうに私どもは捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）



田原 実議員。

○18番（田原 実君）

基本は、駅北エリアのにぎわいをつくるために準備した土地の活用計画です。子育て支援施設を建設すれば、市内各地から親子が来て、周囲を歩き、市が掲げるまちなか大家族のイラストのようににぎわうまちになり、住む人も訪れる人もみんなハッピーでよかったねと、住民説明会で行政の説明がありました。

また、設計の内容は不確定で、市民ニーズに応えるものになるよう、東北電力ビル跡地も使うと説明がありました。担当課、これで間違いはないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今ほどの子育て支援施設に加えまして、今ほど市民の皆様、地域の皆様も含めまして、いろんな方と意見交換を進めております。実際に、近隣にお住まいの方からは、戦略には高齢者元気ということが示されているのに、まだその辺は薄いんじゃないだろうかという厳しいようなご意見も頂いております。

それらのことを踏まえまして、私どもは、まずは井上商会さんの跡地で、皆さんの声をお聴きし、最終的に東北電力さんの敷地も私どもは所有しておりますので、その部分で含めた計画というふうに今、私どもは捉えて、作業のほうを進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

復興まちづくりは、地元住民の理解と協力なしには進みません。それを担当課は理解し、物事を進めていますか。11月19日の住民説明会では、市の計画の進め方に賛同する住民意見には、とりとめもなく追加説明し、一方、そうでない住民には、後で個別で話をさせてくれという職員の対応を見ました。住民に差をつけていいんですか。これで地元の皆さんの理解と協力が得られますか。地元の皆さん、よく我慢してるなと思いました。それは、市長がこれまでに、にぎわいのあるまち、住み続けられるまちを共に目指してきたことへの感謝と、これからも長くお世話になりますのでお願いしますという謙虚な気持ちの表れだと、私は考えます。地元住民や商業者は、反対意見を言わないとして物事を進めていますが、そうじゃないことをお分かりでしょうか。言いたくても我慢してるんです。

さて、今回の質問の論点ですが、子育て支援センターでは、にぎわいに資するものではない。これは誰もが思います。

そこで、広い室内の遊び場をプラスして造れば、親子が来る。そうかもしれません。市外の施設へ行く子育て世代のニーズに応えることが、長年の行政課題だ。その解決のため、市はそういった

ものを造る。誰も反対しません。できません。

ところで、子育て世代市民が行くという市外の施設はどこですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、市民が行く市外の施設はどこかというご質問ですが、私ども子育て世代にも今ほどの計画をお示して、ご意見を頂いております。市民の方は、やはり上越のオーレンプラザですとか、妙高の施設、近隣でいうとそういった施設に、買物のついでにといいますか、買物もついでに行くんだらうと思っておりますが、そのときにも意見交換におきましても、そういった施設が上がっております。市民のニーズというのは、子育て世代のニーズというはあるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今日の質問をするに当たり、私は市内の子育て支援センターの場所と建物外観と受付辺りを見てまいりました。さらにセンター的なものがあれば、利用者は様々な子育て支援サービスを知り、相談したり、遊んだり、いろんなことをすることが想像できました。

ただ、上越の施設へ行く親子が、来てくれるかは疑問です。というのは、上越でいろんなことができるから、そこへ行きたいということになるので、もし、類似のものを糸魚川で造っても、来てくれるかという、これは誰もが抱く心配があります。

能生や青海の子育て支援センターの利用者が、糸魚川へ来るエビデンスは、行政にありますか。ご説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

以前も申し上げましたが、近いところで冬場、また雨の日に遊ぶ場所がないというのが、非常に多くの子育て世代からご要望を頂いているところであります。そういった、先ほど課題解決とおっしゃいましたけれども、やっぱり行政としてそういった課題解決をしていくことは、当然だろうというふうに思っています。

ただ、近隣に、例えば上越市に大きな施設があって、NPOが管理運営をしていて、非常にいい施設があります。糸魚川におきましても、来ていただけるような施設、機能といいますか、運営する人も含めて、そういった誰もが来やすい施設を造っていく。そのために今、ご意見を伺いながら機能を検討しているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

子育ての課題解決のために今回の施設を考えてると言ったのは、行政側が言ったんですよ。私が言ったんじゃないですからね。

もう一つ、心配なことがあります。当初、住民に説明していた基本的なことが、途中から変わっていくことはありませんか。11月19日の住民説明会での資料で、不可解なことが記載されていましたので、伺います。

復興地元会議における意見等に対する反映状況等、この中の住民の意見に、子供と老人と一緒にいられる場所があってもよい。また、近隣の幼稚園では、お年寄りを招いてお茶を出す催しがあり、地域に開かれている感の施設はよいとあり、それに対する行政の考えは、防犯等の視点から不特定の個人利用を積極的に促すものではないとしています。関係者のみの施設とし、地域住民を緩く排除しようとしていませんか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私どもは、あの場所に子育て支援施設プラスアルファの複合的な施設を造る場合にも、やはり地元の人から利用していただいて、かわいがっていただける施設になってもらいたい。これは公共施設を造るときにいつも私は考えておることなのですが、そういう施設になってもらいたいと思っています。

地元の方からも、そういう施設を造るのであれば、何らかの形で地元、特に高齢者の方がそこに関われるような仕組みも考えてもらいたいというご意見も頂戴しております。そういう意見等を私どもは一つ一つちゃんと丁寧に拾い上げて、施設のメニューですとか、あと運営体制の在り方について、今後、基本計画の案、素案みたいなものにまとめていきたいというふうに私どもは捉えておりますので、説明会の際に、そういう不適切、今この場で聞くとちょっと適切ではないように聞こえるんですが、私どもは、地元の皆さんと関わり、協力を持っていきたいというふうに考えておりますので、そこはご理解いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

計画敷地は確定しましたか。市民や議会に対して、設計がなかなか決まらなと説明していたものが、ある日突然、議会に示され、議決されていくのをこれまで経験してきましたが、今回も心配をしています。どこが敷地でどのくらいの施設を造るのか。敷地面積、建物面積、構造、階数を分かる範囲でご説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

計画をしている敷地に関しましては、井上商会様の倉庫の跡地、あとそれに加えて、東北電力より取得いたしました建物、その活用、もしくは建物を除却して、今ほどの井上商会さんの倉庫の跡地と一体の敷地として計画する様々なケースが想定されます。市民の皆様からのご意見ですとか、あと公民連携の可能性ということも考えますと、当然ながら維持管理も含めたコストなども考慮した上で、敷地を確定していく必要があるかと思えます。井上商会さんの跡地と電力の部分の部分を合わせました敷地の面積としては、約1,500平米でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

にぎわいに資する部分の設計が、まだ決まらなと聞いていますので、私が地元の方たちから聞いて、これまで議会で提案してきたことを最近の情報を入れながら、改めて提案させていただきます。

答弁は、できない理由、やらない理由ではなく、まちのにぎわいに資するか否か、住み続けられるまちに必要か否かという論点からお願いします。

課長に事前に資料を届けてありますが、ここに小規模コンビニは必要です。これに移動販売車をプラスすれば、買物難民となった住民のニーズに少し応えられます。いかがですか。

昨今、小規模コンビニの設置が進んでいます。議会で視察した新発田市役所ヨリネスの1階にも7坪のコンビニがあり、問い合わせたところ、プロポーザルで募集したとのこと。コンビニ納付ができて、市の窓口機能も果たしてくれるので、近隣住民に喜ばれます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

あの場所で買物ができなくなってしまった。車を運転できないんで困っているという声、特に高齢者の方からは、以前よりお寄せいただいております。今ほど議員のコンビニエンスストアに関しましても、先ほどちょっと私も言ったんですが、民間の参入の可能性というところも我々の先ほどの行政のニーズとか市民のニーズとか言いましたけど、民間参入の可能性というところも今後検討していく上での観点の一つとして加えて、そういう部分の実現可能性について、検討を加えてまいりたいというふうに私どもは考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

よろしく申し上げます。

次に、規制の緩い図書館機能です。

建設産業常任委員会でも、図書館設置の意見がありました。図書館となれば、様々規制がありますが、図書倉庫として市民から本を集めて、貸出をせず、閲覧するだけという運営方法があるそうです。これに子育てやカフェや人が集う場所を複合させれば、にぎわいに資する施設となります。その証拠には、紫波町オガール、塩尻市えんてらす、新発田駅前イクネスなど、子育てと図書館の複合施設が各地に造られ、また、利用も多いと聞きます。

私は、旧東北電力ビルの築50年のほうの危険な部分を解体し、築30年のほうの部分を改修して、図書倉庫を造ればと思います。隣接する子育て支援センター建物本体とは、物理的には分離しながら、機能的には連動して使うということなら、建築基準法の規制も緩くなります。図書館機能は、必ず人を呼び込みます。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員からは、以前より図書館、読書施設について、ご提案を頂戴しているところでございます。

また、立地適正化計画におけます都市機能誘導施策にも整合いたしておりますので、今まで市民の皆様から多く寄せられたご意見・ご提案とともに、精査・検討を加えさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

次に、温浴施設です。

これは地域の集いの場であると同時に、将来、本町通りにある町屋や周辺の空き家を改修して、宿泊施設やシェアハウスとしたときにも役立ちます。言わば、まちやど構想の中のお風呂です。ここに、はやりの格好いいランドリーとカフェを併設すれば、多世代の市民が訪れ、観光客も利用して周囲はにぎわいますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

温泉・温浴施設に関するご意見も頂戴しておるところでございます。先ほども私、公民連携あと民間事業者の参入の可能性も計画の中では探っていきたいというふうにお答えさせていただきました。いわゆる民間事業者の聞き取り調査、サウンディングということと呼んでは呼んでるんですけど、以前にも1回実施したことがあるんですけど、その際には、まだ私どものスタンスがおぼろげだったことから、なかなかよい結果を得ることができなかったというふうに報告を受けております。現在は、まず敷地関係というところの権利関係というのも、ある程度はつきりしてまいりましたし、その辺、私どもも、これからURさんともいろいろサポートも受けながら、そういうサウンディングの際、現状の方向性等も企業の皆さんにお伝えしながら、この基本計画の策定ということと平行・追走するような形で、公民連携の手法の中でその辺は探ってまいりたいと、私どもは予定しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

公民連携、大事ですよ。それで、私なりに井上商会、倉庫跡地の建物を想像してみました。敷地面積861平米260坪で建蔽率80%なので、水平投影面積の許容は最大208坪ですが、近隣に建物があるので建築する面積は180坪とすれば、1階に小規模コンビニのテナント10坪、移動販売車の駐車と販売スペース5坪、温浴施設45坪、この温浴施設の広さは、紫波町オガールを参考にしました。それにランドリー喫茶20坪とすると、民間テナント部分が80坪です。合計が80坪です。市の施設が入るテナントで、子育て支援センター40坪、事務室、相談室、倉庫ほかで40坪で、合計80坪ならば、残りは20坪で、ここにトイレ、階段、エレベーター、後は予算に合わせて2階に全天候型の遊び場を造れば、にぎわいの拠点、子育て支援センター複合施設ができます。紫波町オガールの例に倣って、建設コストと運営を工夫すれば、市民ニーズに応えた施設が建設、運営され、維持できます。以上の私の提案に対する市の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤喜代志君登壇〕

○産業部長（齊藤喜代志君）

おはようございます。

ご提案ありがとうございました。今ほどのご提案も1つの参考にしながら、やはり面積と、あとそういった基準法、そういったものを守りながらどういったものを、機能をどういうふうに盛り込むか。

もう一つ大事なのは、どういった形で運営するか。これがまさしく公民連携、その運営の度合いによっては、もしかすると建設費の部分も民でといった可能性もございます。そういったことをトータル的に検討して、まずはどのような機能を持てば、どういうふうに運営していけば、皆さんのまちの役に立てるのかといったもの、喜んでいただけるのか。そういったものを検討しながら、全体の計画づくりを進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

課題は、建設コストと運営事業者です。オガールを参考に、キターレ考えてほしいと。私は、以前にも要望しましたが、斉藤部長、当時、課長は、時間がないと言っていました。今回、オガールのまねはできなくとも、せめてキターレ設計の失敗を反省して、教訓にさせていただきたいと思いません。

では、質問の3、NHK「ブラタモリ」から、私たちが学んだものは何か。2回目の質問です。

通告書の中で、私なりの考えはお伝えしましたので、テレビ放映を見た感想を交えながら、「ブラタモリ」放送後の市の取組について伺います。

まず、「ブラタモリ」糸魚川編をどのくらいの方がご覧になったか、撮影場所にどのくらいの方が来られたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

「ブラタモリ」の放送後、11月23日につきまして、ご報告いたします。

フォッサマグナパークの駐車場ですが、10時から10時半の間に5台、10時半から11時の間に7台、11時から11時半の間に7台、11時半から12時の間に8台、12時から12時15分の間に3台という状況です。

あわせて、フォッサマグナパークの露頭でのガイドの状況ですが、東京から8人とか、結構、県外から来ておられます。合計で言うと30人をガイドしております。そのうち小学生が6人という報告を受けております。

また、11月27日、フォッサマグナパークの状況ですけれども、私、当日フォッサマグナパークのほうへ行かせていただきましたが、10時から1時までの間に20台ほどの車が来ております。そのほかについては、ちょっと今日、資料を持ってきておりませんので、お答えできません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

通告書を見ていただければ、これはもう観光課長が答える場所ですよ。課長、視聴率とか調べましたか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

NHKからお聞きした内容によりますと、世帯で11%、個人で6%という状況でありました。通常の「ブラタモリ」の視聴率の平均と伺っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

そうなんです。ちょっと中身、分からないんですけど、私が視聴率をNHKに電話して聞いたところ、第1回の「フォッサマグナ～日本はどうできた？～」、これが新潟県で17.3%、関東圏で11.2%、第2回の「君は糸魚川の本当のすごさを知っているか？」、これが新潟県で19.3%、関東圏で11.3%です。1回目と2回目で新潟県の視聴率が2%上がっています。番組が面白かったということなんだろうが、糸魚川への関心が高まり、県内誘客の大きなチャンスが来ているとは考えられませんか。担当課に伺います。

また、「ブラタモリ」撮影場所をたどるツアーの資料の準備はできていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今回の放送によりまして、改めて糸魚川のカラーが明確になったものと思っております。これまで取り組んできましたジオパーク活動を含めまして、今後ともジオパークの理念に沿った取組を進めていくこととしております。

また、今後とも、放送でもありましたように、ジオツーリズム等を通じまして、観光地域づくりと一体となった取組が必要であると考えております。

また、今回の放送に合わせまして、糸魚川ジオパーク協議会のウェブサイトにおきまして、特設サイトを設置し、2つのモデルコースを公開しております。今後とも、内容のブラッシュアップに努め、誘客を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私は、「ブラタモリ」をきっかけとした県内マイクロツーリズムをちゃんと進めているかということを知りたいんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

放送以前からもコロナ禍によりまして、県内、また近隣からのマイクロツーリズムが盛んに行われておりまして、当市でも多くの方がおいでいただいております。今後とも、番組の放送を基本としたモデルコースですとか案内を工夫しまして、より多くの皆様からおいでいただき、また、楽しんでいただけるように取り組んでまいります。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

堺市の観光コンベンション協会へ電話しましたら、すぐにこのような資料が届きました。後でお届けしますので、参考にしてください。

さて、私の手持ち資料を紹介して、質問を続けます。

世界ジオパークまるごと糸魚川資料集は、富永課長が編さんに関わっておられました。このすばらしい資料のさらなる活用について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

おはようございます。

お答えいたします。

まるごと糸魚川、現在も活用して、そのよさを各学校のほうで反響を得ているわけですが、これまで以上に、まず、総合的な学習におけるふるさと糸魚川の学習推進、ジオパーク学習の推進に役立てていただきたいというふうに思っております。

また、教科の学習においても、ふるさと糸魚川という社会科副読本があるんですけども、それにプラスして、価値ある資料集として、ご活用いただければというふうに考えています。

それからもう一つ、やはり親子でジオパークを対話しながら学べるというふうな意味で、コミュニケーションツールとして、まるごと糸魚川の資料集を使っていただければというふうに考えています。

蛇足ですけども、今回、糸魚川を訪れる中学生、小学生の、高校生もありますけれども、修学旅行で問合せが入ってまいります。効果的な資料集はないかと、事前学習の資料集はないかというふうなことを聞かれますが、このまるごと糸魚川の資料集のほうを紹介させていただいてるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、続きまして、「梅海新道その自然北アルプスから日本海へ」小野 建先生の写真の数々もそうですが、仲間の皆さんとの写真に私は感動します。これこそが、人と自然、大地が一体になっている糸魚川のすごさの一つだと思います。この資料のさらなる活用を教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

今ほどご紹介にありました写真集ですけれども、出版されてから随分年月がたっております。調べましたら、市内の図書館に在庫がありまして、今までもジオパークコーナー、あるいは郷土本のコーナーに書棚に入っておりましたけれども、より一層、今回の放送を得て、その機を得て、多くの皆様方に梅海新道の魅力、そして歴史、そして開拓した人たちの汗の結晶というふうな部分を多くの皆さんに知ってもらうためにも、いま一度、それぞれ紹介しながら、やっぱり図書館のジオパーク学習のコーナーにしっかり置いてもらうように工夫しながら、みんなで学んでもらえる。みんなでその中から学ぶというふうな貴重な資料に活用してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

あわせて、教育長からは、伝道師として広くお話をさせていただければと思います。よろしく願います。

「翡翠展東洋の至宝2004」、こちらです。ヒスイの魅力が分かるよい資料です。「ブラタモリ」糸魚川編でも、国石ヒスイも紹介されたので、久しぶりに見ました。きれいな写真と解説が素晴らしいこの資料の、さらなる活用について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

紹介された図鑑集ですけれども、私も手に取って1ページずつ見させていただきました。糸魚川産出のヒスイも紹介されていますし、ヒスイの持つ、鉱物的な価値、それから分布、それから糸魚川のヒスイの価値というふうな部分も丁寧に、きれいな写真を通して紹介されていますので、そこら辺りについても紹介しながら、みんなでそれを見ていただく、活用していただく貴重な図鑑として位置づけ、図書館でも多く利用していただきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

番組の中では、縄文よりヒスイ製品が全国に広まったが、その見返りに得たものが、今まで糸魚川で発見されない理由については、昔ここにいた人が気前がよかったんじゃないかと、市の関係者が冗談めいて話をしていましたが、これは市の見解となっているんですか。タモリさんも苦笑いしていたように見えたんですが、糸魚川のすごさの数々が紹介された後だったので、このコメントは、

私にとっては残念でした。それこそ、日本史最大の謎ですと、なぜ言わなかったのか。また、歴史の舞台から長らく消えていたヒスイが、昭和13年ですか、糸魚川で再発見されたことも、相馬御風先生の推察に始まって、発見されたことだ。しかし、いまだ多くの謎があると、なぜ言わなかったのか。ヒスイにまつわる謎を解き明かしにパート3のロケへ来てくださいと。次に続くチャンスをつくってほしかったです。今後の取組としては、いかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

私も放送を見た後で、見返りを求めない太っ腹な人たちが当時住んでいたのではないかということが疑問でありましたので、学芸員にも問合せをしてみました。そうしたところ、当時の縄文時代では、見返りを求めない贈与という、いわゆるヒスイをステータスシンボルとして糸魚川から全国へ、あるいは韓国にも渡っているようですので、そういった考え方が、現代人ではなかなか考え、計り知れないものがあるということの紹介がありました。ですので、糸魚川市としての考えというよりは、考古学における考え方の一つと、木島館長がそういったことが、まだ学説としても確定していないということから、そういった紹介をしたのではないかということでございます。

また、相馬御風につきましても、ロケが御風宅の外壁といいますか、そのすぐ脇で行われていたものですから、私も放送を見ながら、御風さんが紹介されるのではないかと期待をしていたところでもあります。それが話の中では、ちょっと出てこなかったというのは残念ですので、今後、機会がありましたら、3回と言わず、4回、5回と、また取り上げていただけるような、放送局側にも働きかける機会がありましたら、そんなお話もしてみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今の次長のご答弁は、会議録に残りますから、よろしく願いいたします。

私は、これまで平成27年6月、平成28年12月、平成31年3月の一般質問で、「ブラタモリ」の撮影誘致を訴え、それがかなったことを心から喜んでいきます。

今、会議録を読み返しますと、当時、観光課長の渡辺部長、磯野次長や大嶋課長の皆さんにご答弁いただいています。特に渡辺部長から、親切丁寧にお答えいただきました。ありがとうございました。

糸魚川市も、春からの様々な事件や不祥事で、市民の気持ちは沈むばかりでしたが、ここへ来て、タモリさんのおかげで糸魚川のすばらしさを日本中に発信できたことは、市民にとって、ふるさとへの誇りを取り戻すきっかけとなりました。この場から、タモリさんにお礼を申し上げます。

最後に、市長からお言葉をいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に「ブラタモリ」の番組については、非常に前向きに、そして糸魚川を非常に大きく捉えていただきました。私といたしましても、非常にこの糸魚川、そしてこの自然に対して誇らしく感じた次第でございまして、このことは、本当にどこに行ってもしばらくは皆さんに伝えて、そしてまた、もしできたらビデオでも見ていただきたいというような気持ちでございます。

より我々はまだまだ、情報発信が足りないところが数多くあるかと思っておりますので、この「ブラタモリ」の番組をきっかけに、さらに大きく情報発信をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

タモリさんが、根知すごいなと2回も言ったんですね。根知の皆さん、そして、米田市長のお喜び、ひとしおのものと拝察します。

これで一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩をいたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時07分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

近藤新二議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。〔16番 近藤新二君登壇〕

○16番（近藤新二君）

おはようございます。創生クラブの近藤新二です。

事前に提出した通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、公園の整備について。

2019年に作成された「糸魚川市公共施設等総合管理指針」個別計画の公園においては、整備に関する基本的な考えとして、「公園施設の機能保全に支障となる劣化や損傷を未然に防止するため、公園施設の日常的な維持保全（清掃・保守・修繕など）に加え、日常点検、定期点検結果の活